

アカスジカスミカメによる「あきたこまち」の被害状況と防除適期

福島県農業総合センター 生産環境部
浜地域研究所

1 部門名

水稻 - 水稻 - 病虫害防除

2 担当者

松木伸浩・佐藤淳平・山田真孝・鈴木洋平・三田村敏正

3 要旨

1999年以降浜通り地域で斑点米被害の多発傾向が続いており、とくに飯館村では2005年頃から甚大な被害を受けている。主要加害種は、近年発生量が急激に増加したアカスジカスミカメである。そこで、本種多発地域における被害状況と効果的な薬剤防除時期を検討した。

- (1) アカスジカスミカメは、主に年4世代と推定された。
- (2) 「あきたこまち」では、出穂始めから出穂期頃に第1世代成虫が水田内に侵入し、その後、第2世代幼虫・成虫が発生した。
- (3) 斑点米被害は頂部加害粒に比べ側部加害粒が多いことから、第1世代成虫による被害は少なく第2世代幼虫・成虫による加害が主体であると推察された。
- (4) 「あきたこまち」での殺虫剤(剤型:液剤)1回散布による防除適期は、出穂期10～14日後が有効と判断された。
- (5) イヌホタルイ等が発生した水田では、イネの出穂前から成虫の水田内への侵入が確認された。このような場合は慣行の2回防除が必要である。

4 主な参考文献・資料

- (1) 加進丈二ほか(2008)イヌホタルイが発生した水田におけるアカスジカスミカメの防除適期、平成19年度 東北農業研究成果情報
- (2) 平成19～21年度農業総合センター試験成績概要(2007～2009)